様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３６３０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０３５２

研究課題名（和文）現代エスニック・アメリカ文学における空間表象の研究

研究課題名（英文）A Study of Spatial Representation in Modern Ethnic American Literature

研究代表者
吉田　美津（YOSHIDA, Mitsu）

松山大学・経営学部・教授

研究者番号：８０１４０６２２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,500,000円、（間接経費）　450,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、エスニシティが場所や風景の空間表象としていかに描出されるかを考察した。１９世紀の「フロンティア」、「田園的理念」さらに「サブライム」の概念とは異なる移民の自然体験と風景の構築を中国系作家マクシーン・ホン・キングストンの『アメリカの中国人』(China Men)に検討し、ネイティヴ・アメリカン作家のレスリー・マーモン・シルコウの『儀式』に土地に根差した部族の物語が持つ意味を考察した。他にヴェトナム系作家の作品なども検討し、人々がそこから物語を紡ぐ特定の場所としてエスニシティがいかに描出されるか考察を深め、これらの考察を研究成果として雑誌論文などにまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the research is to examine how ethnicity is delineated as spatial representation of place and landscape. It considers how Chinese American writer Maxine Hong Kingston shows in her work, China Men, that Chinese immigrants experience American places from a perspective that differs from the traditional views such as Frontier, Pastoral, and American Sublime. The study also examines how the mythic stories closely related with Laguna Pueblo landscape are central to reading Native American writer Leslie Marmon Silko's work, Ceremony. With these works, the works of some major Vietnamese American writers are also considered. The research demonstrates that ethnicity is represented as a specific place from which people weave their own stories.

研究分野：アメリカ文学

科研費の分科・細目：文学・英米英語圏文学

キーワード：アジア系アメリカ文学　ネイティヴ・アメリカンの文学　エスニシティ　自然観

１．研究開始当初の背景

（１）報告者も訳者の一人として翻訳したローレンス・ビュエル（Lawrence Buell）の『環境批評の未来』(*The Future of Environmental Criticism*, 2005)により、場所や環境という空間表象の研究がエスニック・アメリカ文学研究にも有効であることを学んだ。ビュエルが現代のネイチャーライティングと共にアフリカ系、アジア系、メキシコ系、さらにネイティヴ・アメリカンの文学というマイノリティ文学を論じたことは環境批評がより広い概念をもつ文学批評へと発展する可能性を示唆していた。その文学批評としての理論的発展を論じた拙論「環境批評とエスニシティ――アジア系アメリカ文学研究と「パストラル」の変容」(*AALA Journal*, No. 14, 2008）で考察したように、旧イギリス植民地出身の作家たちの作品における環境表象を理解するため「環境的二重意識」とも言うべき「ポストコロニアル・パストラル」(Rob Nixon, “Environmentalism and Postcolonialism,” *Postcolonial Studies and Beyond*, 2005)の視点の重要性を認識した。その重要性は、現代の変貌した風景に植民地主義によって喪失されたかつての風景を前景化し、環境に歴史的変遷を読むことである。このことは、マイノリティ文学における場所や風景の空間表象を歴史的構築物として捉える可能性を示唆している。

（２）環境をめぐるこのような文学批評において二つの新しい視点を指摘することができる。一つは人種と環境の関連が自明となったことである。１９９０年代後半より環境汚染を背景に都市のゲットー化が問題となり、保護主義的環境主義の正当性が疑問視されるようになると、批評の対象がマイノリティ文学、詩、劇など多様なジャンルを含むようになり、都市環境への関心を促した。マイケル・ベネット(Michael Bennett)は区画整理の対象となるゲットーが有色の人びとの場所を連想させることを「人種の空間化」(*The Nature of Cities*, 1999.169)と言い、人種と場所の不可分な関係を展開した。環境による人種差別の是正の動きは、有毒廃棄物処理場の多くが人種的マイノリティである人びとの居住地の近くに存在することから、環境正義（Environmental Justice）の社会運動へと連動してゆく。このことは環境の空間表象の研究は、人種的マイノリティの人びとの文学的営為におけるインターエスニックな考察をも可能にする。さらに二つ目の新たな視点は、文学批評が本質的にもつ表象の問題である。自然表象は、自然そのものではなく言語の意味体系のなかに立ち現れる言語記号の要素を持っている点である。言語記号の恣意性を考えるなら自然表象は現実の自然よりも、自然をめぐる価値の序列化とイデオロギーをより明示的に示す。環境文学批評は、自然と文明という二分される表象そのものを成り立たせている社会制度や、それと共犯関係を結ばざるを得ないテキストの自己照射性の意味をも探ろうとする批評であると言える。本研究は、現代エスニック・アメリカ文学におけるエスニシティと広義の環境についてこのような考察を背景にしている。

２．研究の目的

本研究は、平成２０年度から平成２２年度の基盤研究（C）「アジア系アメリカ文学におけるエスニシティと環境的想像力の研究」(課題番号：20520268)での考察と研究成果を背景に、アジア系アメリカ文学研究を中心にネイティヴ・アメリカンやアフリカ系の歴史と文学的営為を視野に置くことにより、エスニシティが場所や風景の空間表象としていかに描出されるかをさらに深く考察することを目的としている。

３．研究の方法

（１）平成２３年度は主に第二次大戦中に「転住所」（強制収容所）において日本人移

民が詠んだ俳句を取り上げ、そこに見る自然描写を考察した。篠田左多江・山本岩夫編集の『日系アメリカ文学雑誌集成』や『日系アメリカ文学雑誌研究――日本語雑誌を中心に』を参考に、帰米二世のカズエ・ヤマダなどの俳句を検討した。その考察を、第２４回エコクリティシズム研究会（平成２５年よりエコクリティシズム研究学会）におけるシンポジウム「エスニシティとエコクリティシズム――現代エスニック・アメリカ文学を読む」（8 月 8 日、於：広島大学東千田キャンパス）で「強制収容と日系アメリカ移民の文学――俳句を中心に」の表題で発表し、他のパネラーによる現代エスニック・アメリカ文学における自然とエスニシティについての多様な視点を学び、新たな洞察を得ることができた。またエスニシティや環境についての新しい知見は、アジア系アメリカ文学研究会などへの参加を通じて得ることができた。

（２）平成２４年度は、１９６０年代の公民権運動を背景にアフリカ系の文学・文化のインターエスニックな影響を中国系作家マクシーン・ホン・キングストン(Maxine Hong Kingston)やフランク・チン(Frank Chin)の作品を中心に検討し考察した。特に彼らが執筆したサンフランシスコをアジア太平洋世界のアメリカ側の要と位置づけ、彼らの作品に「アジア系アメリカの場所」とも言うべき物語世界がどのように構築されているかを考察した。さらにネイティヴ・アメリカン作家と作品における場所の重要性を理解するため研究書や資料を収集した。また多民族研究に関する新しい知見は、多民族研究学会などに参加することで得ることができた。

（３）平成２５年度は、キングストンの作品におけるエスニシティと自然の関係を中心に考察し、さらにネイティヴ・アメリカン作家のレスリー・マーモン・シルコウ(Leslie Marmon Silko)の『儀式』(*Ceremony*, 1977)における場所と「語り」について考察した。アジア系アメリカ文学と自然に関する研究に関しては、アジア系アメリカ文学研究会の例会（第 109 回、7 月 13 日、於:早稲田大学）においてキングストンの『アメリカの中国人』（*China Men*, 1980）を取り上げ「M. H. キングストンの『アメリカの中国人』にみる自然とエスニシティ」の表題で発表し、洞察を深めることができた。またネイティヴ・アメリカンについては、収集した文献によりアジア系とは異なる土地と場所の関係について考察を深めることができた。

４．研究成果

（１）平成２３年度の主な研究成果は著書（共著）二冊であり、雑誌論文一件である。著書（共著）のひとつは、『オルタナティヴ・ヴォイスを聴く――エスニシティとジェンダーで読む現代英語環境文学１０３選』（伊藤詔子監修、音羽書房鶴見書店）である。それに掲載した概論「アジア系の文学とアメリカの自然と風景」において中国系、日系、そしてヴェトナム系の文学作品に見る自然と風景の異なる関係を論じた。さらに作家と作品、その評価と研究についての概説「カウンターカルチャーの場所」（Maxine Hong Kingston, *Tripmaster Monkey*）、「家族史としてのチャイナタウン」（Fae Myenne Ng, *Bone*)、「ヘテロポリス・ロサンゼルス」(Karen Tei Yamashita, *Tropic of Orange*）などを執筆し、アジア系アメリカ文学におけるエスニシティと場所や共同体の関係を中心に論じた。さらに著書（共著）の『アジア系アメリカ文学を学ぶ人のために』（植木照代監修、世界思想社）では、「ヴェトナム系アメリカ文学――ヴェトナム戦争を超えて」を執筆した。作家 Kien Nguyen, Andrew Pham, Le Ly Hayslip, Lan Cao, Dao Strom などを取り上げ、彼らの作品におけるヴェトナム、戦争、

そしてアメリカの異なる捉え方の意味を論じた。

雑誌論文の「アメリカに蘇る猿の大王――『トリップマスター・モンキー』に見るインターエスニックな視点」（『多民族研究』第5号）は、多民族研究学会第１４回全国大会のシンポジウム「アジア系アメリカ文学・文化における Interethnic Encounters」での発表をもとにした論考である。１９６０年代の公民権運動を背景に、キングストンの『トリップマスター・モンキー』(*Tripmaster Monkey*, 1989)を中心に、アフリカ系の文化や文学に影響を受ける主人公の造形に見るインターエスニックな意味を探り、彼をアジア系の新たなヒーロー像として提示することでアフリカ系との共闘の可能性を示していると論じた。

（２）平成２４年度の研究成果は、前年度における第２４回エコクリティシズム研究会でのシンポジウム「エスニシティとエコクリティシズム――現代エスニック・アメリカ文学を読む」での発表「強制収容と日系アメリカ移民の文学――俳句を中心に」をもとにした報告論文と日本アメリカ文学会第５１回全国大会のワークショップ、多民族研究学会発題による「もうひとつの公民権運動――６０年代アクテイヴィズムと文学」（10 月 14 日、於：名古屋大学）における発表「アジア系アメリカ文学にみる公民権運動とジェンダー」である。報告論文「強制収容と日系移民の文学――俳句を中心に」（『エコクリティシズム・レヴュー』No.5:42-47）は、カリフォルニアで吟社を開いた尾澤寧次の句集『病愁　寧字句集』(発行者：尾澤まさんど、1988 年)と帰米二世のカズエ・マツダ(Violet Kazue de Cristoforo)の編集翻訳した俳句集 *May Sky: There Is Always Tomorrow: An Anthology of Japanese American Concentration Camp Kaiko Haiku* (1997)と同様にマツダの編集した『さつぎぞらあしたもある――アメリカ日系人強制収容所俳句集』（行路社、1995 年）を中心に日本人移民が収容所の環境と自然をどのように捉えたかを考察した。

日本アメリカ文学会全国大会では、民族的少数グループにおける１９６０年代の公民権運動とその文学的営為はいかなるものであったかをテーマに「もうひとつの公民権運動――６０年代アクティヴィズムと文学」の表題でワークショップを行った。他のパネリストはアフリカ系やチカーノを論じ、吉田はジェンダーの視点からフランク・チンの戯曲とマクシーン・ホン・キングストンの作品をとりあげ、ジェンダーによって公民権運動の捉え方が異なることを論じた。

（３）平成２５年度における主な研究成果は、著書（共著）が一冊と雑誌論文一件である。他に著書（共著）が現在印刷中である。著書（共著）は『憑依する過去――アジア系アメリカ文学におけるトラウマ・記憶・再生』（小林富久子監修、金星堂）である。掲載した論考「檀香山からシエラネヴァダ山脈へ――『アメリカの中国人』におけるオルタナティヴな自然観」において、キングストンの作品で中国人移民がハワイのプランテーションやシエラネヴァダ山脈の大陸横断鉄道の工事現場で対峙し格闘した自然がアメリカ文学に連綿としてある「パストラル」や「フロンティア」、さらに「サブライム」の概念とどのように異なるかを論じ、所有し征服するのではない自然に対するもう一つの捉え方が描かれていることを論じた。さらに雑誌論文「『儀式』における「語り」の世界と物語空間」（『松山大学論集』第 25 巻第 6 号）では、ラグーナ・プエブロ出身のレスリー・マーモン・シルコウの『儀式』における部族の「神話」と小説的世界の関係を論じた。「神話」がどのように彼らの場所と土地と密接に関連しているかの考察を背景に、シルコウが、

部族の「神話」の語りと主人公の探求物語という西洋的小説世界を並置することによってどのような物語空間を構築しているかを論じた。

他に著書（共著）『エスニック研究のフロンティア』（多民族研究学会創立十周年記念論集、金星堂）が現在印刷中である。掲載論文「アジア太平洋世界の想像力――『ドナルド・ダックの夢』と『アメリカの中国人』を中心に」では、アメリカ合衆国の「新太平洋共同体」構想などにおける地政学的野望を背景に、中国系作家フランク・チンとキングストンはどのような「アジア系アメリカの場所」を作品において描出しているかを論じた。チンは『ドナルド・ダックの夢』(*Donald Duk*, 1991)で二つの文化を理解する主人公に未来を託し、キングストンは『アメリカの中国人』で二つの文化のはざまで苦悩するアジア系を描く。両作品はアジアとアメリカの関係に対する異なる「アジア系アメリカの場所」を提示していると論じた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計２件）

① 吉田美津　「『儀式』における「語り」の世界と物語空間」『松山大学論集』松山大学紀要、査読無、第25巻第6号、2014、pp.53-75.

② 吉田美津　「アメリカに蘇る猿の大王――『トリップマスター・モンキー』に見るインターエスニックな視点」『多民族研究』、査読無、第5号、2012、pp.5-21.

〔学会発表〕（計１件）

① 司会：西垣内磨留美　発表者：松本昇、吉田美津、斉藤修三、馬場聡　ワークショップ「もうひとつの公民権運動――６０年代アクティヴィズムと文学」(多民族研究学会発題)、日本アメリカ文学会第５１回全国大会、2012年10月14日、於：名古屋大学。

〔図書〕（計４件）

① （共著）多民族研究学会編（松本昇、西垣内磨留美、吉田美津、横田由理、君塚淳一編集)、金星堂、『エスニック研究のフロンティア』(多民族研究学会創立十周年記念論集)、「アジア太平洋世界の想像力――『ドナルド・ダックの夢』と『アメリカの中国人』を中心に」(吉田美津)、2014年、印刷中。

② （共著）小林富久子〔監修〕石原剛、稲木妙子、原恵理子、麻生亨志、中垣恒太郎〔編〕、金星堂、『憑依する過去――アジア系アメリカ文学におけるトラウマ・記憶・再生』、「檀香山からシエラネヴァダ山脈へ――『アメリカの中国人』におけるオルタナティヴな自然観」（吉田美津）、2014年、368(183-199).

③ （共著）植木照代〔監修〕山本秀行、村山瑞穂〔編〕、世界思想社、『アジア系アメリカ文学を学ぶ人のために』、「ヴェトナム系アメリカ文学――ヴェトナム戦争を超えて」（吉田美津）、2011 年、436(121-138).

④ (共著)　伊藤詔子〔監修〕横田由理、浅井千晶、城戸光世、松永京子、真野剛、水野敦子〔編〕、音羽書房鶴見書店、吉田美津他著『オルタナティヴ・ヴォイスを聴く――エスニシティとジェンダーで読む現代英語環境文学１０３選』、2011年、392（21-24，41，148，160，313-316，325-328，339-342）.

６．研究組織

(1)研究代表者

吉田 美津（YOSHIDA Mitsu）
松山大学・経営学部・教授
研究者番号：80140622